

成田・佐倉で激闘

権力・当局、本部の弾圧・敵対を粉碎!

助役機関士導入阻止

才2日目(2/20)の闘い

「本部」反動分子スト破りの本性あらわす

スト破り助役機関士線見訓練阻止第二日目の闘いは、第一日目の動員者を上廻る数をもって成田・佐倉において打ち抜かれた。二拠点の闘いは相呼応して権力・当局「本部」反動分子の弾圧・敵対をはねのけ戦闘的に展開され線見実力阻止をかちとつた。

ホーム上でのピケ合戦50分

成田運転区

20日早朝も、成田駅頭で連続的に練り広げられる反対同盟、支援共闘の「動労千葉支援」駅頭情宣の声が伝わる駅構内3番線ホームで闘いの火ぶたが切られた。7時30分頃動労千葉50名の動員隊が機関車が停留するホーム上にピケをはる。当局は職制30名が助役機関士をガードし、すぐ後に乱闘服・ヘルメットの公安機動隊30名を引きつれ弾圧の機をうかがう。

暫らく対峙の状態が続き、当局は「警告」を力なく繰り返す。発車時刻が刻々と迫るなか一昨日の阻止された汚名ばん回とばかり、当局は顔をひきつらせて動労千葉のピケに突込んでくる。動労千葉の怒りは烈火のごとく燃えあがり固いスクラムはその都度当局をはねかえす。十数回50分におよぶ激突は動労千葉の力強いピケによってことごとく粉碎する。発車時間を大巾に過ぎてもちがあかない当局はいら立ちを深めるばかりであり、さりとて公安機動隊を前面に立て弾圧しようとしても動労千葉の気迫に圧倒され前面に出ることもできず、わが動労千葉に一指もふれることはできなかった。

かくして動労千葉の固いスクラムの前に、当局の意図した助役機関士線見訓練の所期の目的は粉碎され、列車は三十分遅れて発車していった。

線見訓練列車二本を実力阻止

佐倉機関区

19日早朝、動労千葉の眼前で当局の手厚い保護にとりすがって助役機関士の線見訓練を受け入れるといふ大裏切りを行った「本部」派土屋一派は、さらに同日深夜、全動労と仲良く肩を並べた50センチメートル四方のちいさな「本部」派掲示板に「堂々」とスト破り宣言よろしく「助役機関士線見に対する動労佐倉支部の見解」と題する掲示物を貼り出した。

その内容たるや、わが動労千葉はもとより、国

労も助役機関士導入―線見訓練反対を当局に抗議の申し入れを行っている中であって、動労「本部」は「助役機関士線見に対し受け入れることを決定した」と貼り出し、公然とスト破りに卒先して協力することを表明しているのである。

このスト破り卒先協力の掲示物を見て「スト破り『本部』派許すまじ」と怒りに燃えた佐倉支部組合員はじめ他支部動員者90名は、「スト破り『本部』派土屋一派糾弾!助役機関士線見阻止!」の決意も固く早朝から決起した。

線見訓練列車二本には、前頭車に動労千葉機関士が乗務し、後尾車に「本部」派機関士が乗る。この列車に10名の助役機関士を線見訓練のため乗り込ませようと60名の職制が、顔をひきつらせた運転部長を先頭に動労千葉のピケ隊に突込んでくる。動労千葉は当局職制を二隊に分断し徹底した糾弾阻止行動をとる。激しいシュプレヒコールは機関区構内を席捲し完全に当局を圧倒する。動労千葉機関士は、助役機関士の乗車をきっぱりと拒否し終始闘い抜く。「本部」派機関士の乗る機関車脇でも動労千葉ピケ隊は実力阻止の決意も固く闘い抜く。

8時55分、線見訓練列車二本は助役機関士を一人たりとも乗せず、動労千葉組合員の勝利の組合歌合唱と実力阻止勝利の汽笛を響かせて発車していった。



強行突破をはかる当局をピケで阻止
〈20日、成田駅3番線ホーム〉

2/23 臨大(福祉センター)13時に総力で結集しよう!